

禮術両翼之卷

草鹿

和装本

ケ 5

44

9





大坪本流西翼之卷

草鹿 春生軒齋藤定易撰

草鹿者鎌倉右大将頼朝公富士狩倉ヲナ
 サシカタメニ先相模山ヲ狩シメ給フ多勢
 射手鹿ヲ洩シ射損スル也其内羽ヲ飲シ
 テ中矢モアリ于時頼朝公兩庄司下河邊愛
 甲三郎ヲ召サレ其旨ヲ御尋アリ三士答コテ云
 武田小笠原ハ當時弓馬達人也御尋有ヘシ

赤三浦久義澄カ父義明上総久廣常者勅ヲ
請テ下野国那須野ノ狹狐ヲ狩シメ上洛シテ
御感ニ預程ノ狩倉ニ功成者也彼等シモ召サ
レ御尋ト云頼朝實モト思召テ彼是四人シ
召サレ其故ヲ仰合ル皆評定シテ鹿ニ中
タル能夫毎ノ鹿ト馬トノ疏シ考ヘ弓弦ヲ外
シテ弓杖シキ見取大概十一杖ノ中ノ矢多クシ以
是草鹿ノ法トス然共十一杖ニテハ止ラサル鹿ア



リ故ニ十一杖シ略シテ九杖ニ定メ草シ以テ鹿
シ作り弓様シトス東鑑ニ建久三年八月廿日
三浦比企ヒ梶原等ノ武士シ召サレ坪庭ニ於テ
此勝負有ト云ニ畢竟軍中ニ於テ夫坪シ
真中射テ取ラント思フ馴シナルヘシ
草鹿ハ建久ノ頃ニハ草シ以テ作之其鹿ノ
勢長サ一尺八寸豎ハ寸類ノ長サ七寸五分面ノ
長サ三寸五分背通ノ星七ツ矢中ノ星四寸金足ニ
定

廻ノ星ハ四呎ハ大成ニ前後ニ各々星四ツ宛乳
ハ背通ノ間五寸口訣アリ横サマニ裏ニ乳ノヤウニ
シテ二呎引通スヘシ鹿ノ首前ヘ向フ唯弓手
ニ逢如シ綱ハ二筋ナルヘシ腰綱ト云是也串ハ
丸物串ノ如シ横串五尺内刻四尺三寸立串土
ヨリ上三尺七寸串ノ太サ口一寸四分也

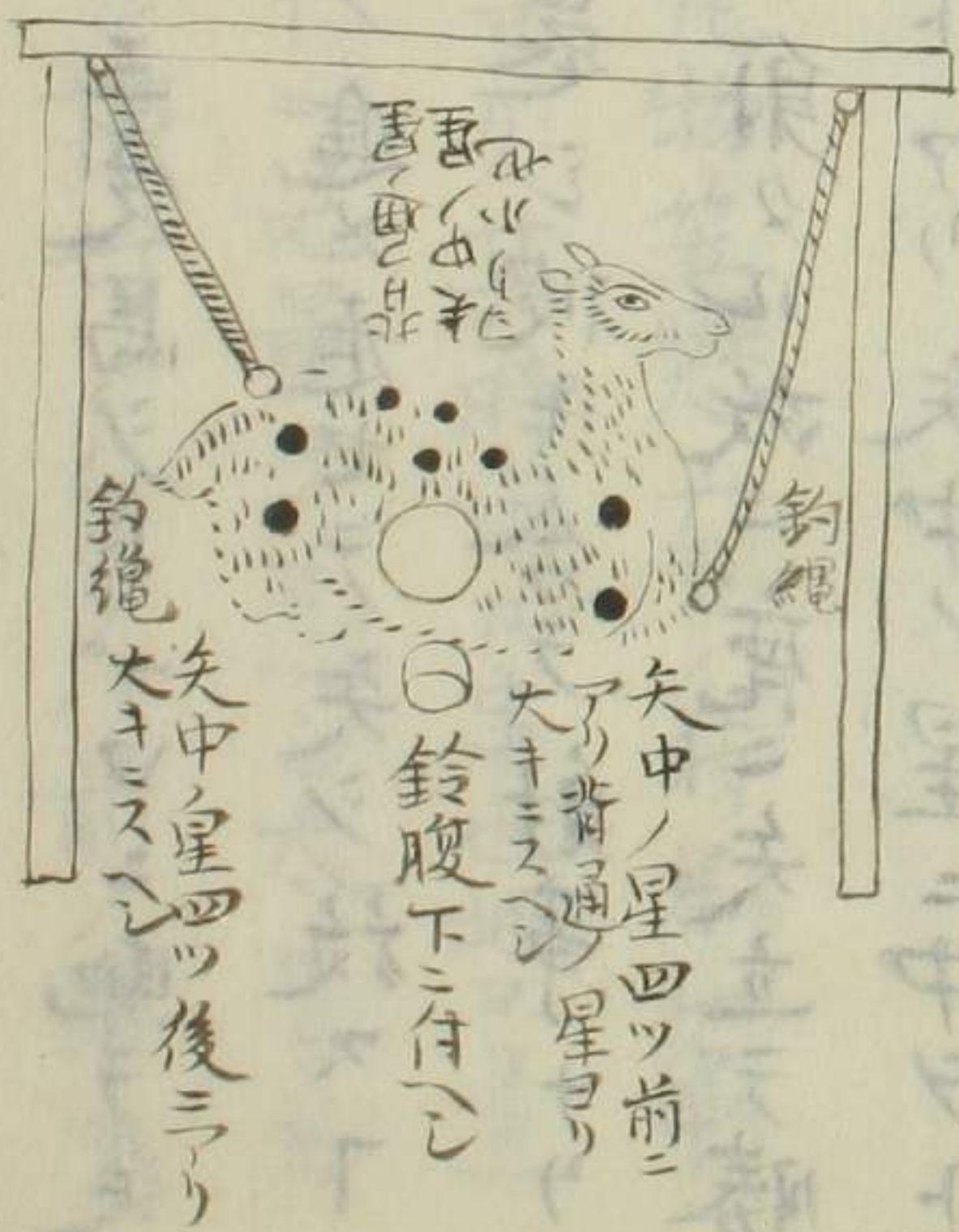
近代ハ鹿シ紙ニテ張脱ヌキニシテ其上シ鹿ノ毛
皮ヲ掛テ包物ヲ功ニ存ル多シ然共鹿ニ足ヲハ

作サル物也鹿野草ヤサフシ走ル形相ヲ象ル故ニシカ
ノ如シ腹下ニ風鈴フウリンシツ付ル也四目ノ鐺カマシシ以テ射
ル也鹿ニ中ル時ハ動キテ其銜音リシナリヒキヲ以テ勝
トスル者也蓋シ騎射ノ草鹿ハ鹿ヲ馬場ニ
釣立テ射之歩射ハ鹿ヲ塚ノ吹ニ九杖ニ立テ
射之也又上手ハ鹿ヲ馬場ニ掛射習ノ人ハ塚
ニ鹿ヲ掛共古人ノ云ヘリ

草鹿之圖



此馬ノ乗尻ハ終リ三度ノ射方也



此鹿ノ頭ハ終リ三度ノ射方也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '釣繩', '矢中', and '星']

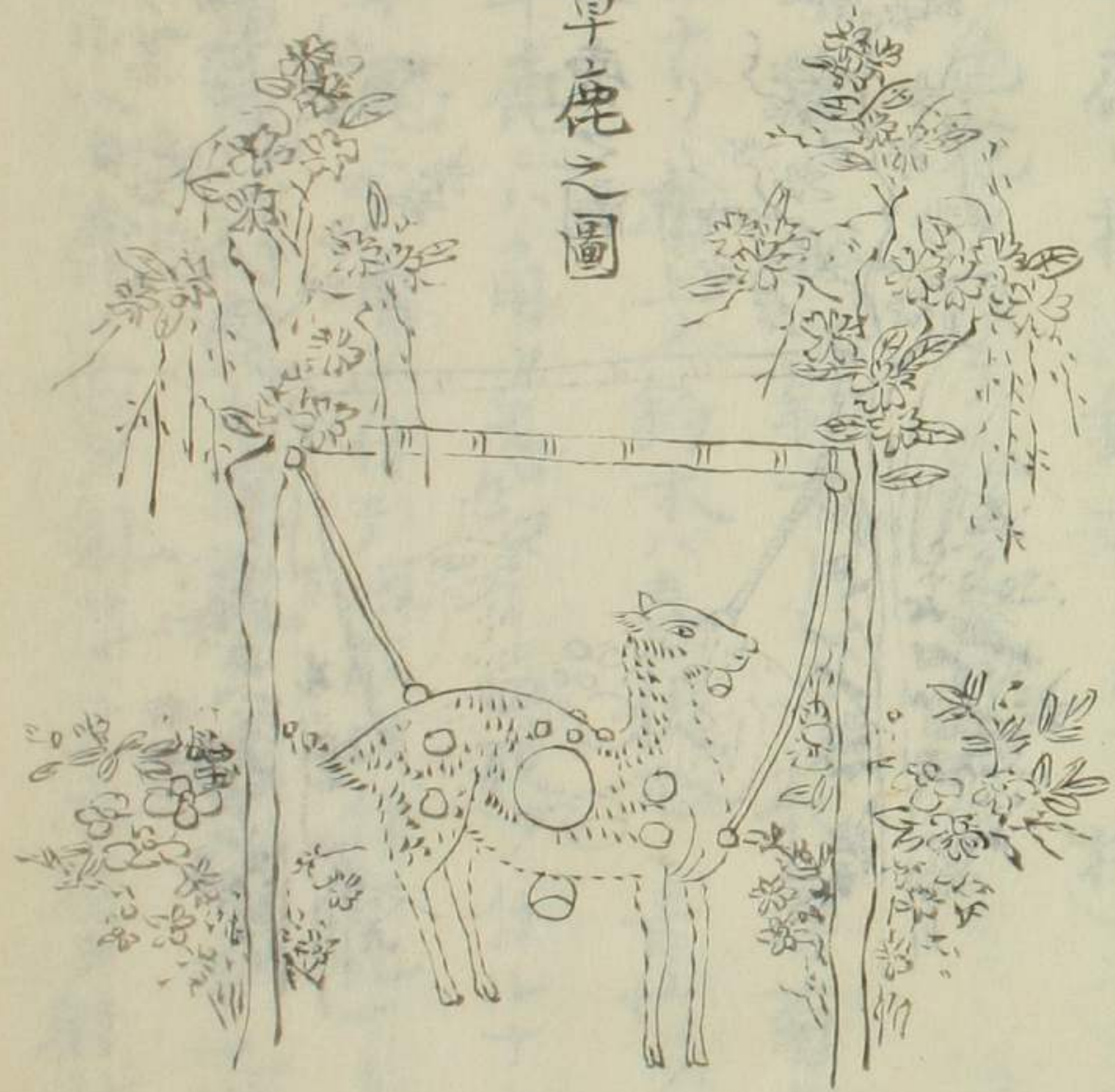
草鹿ノ馬場中ニ折懸串ニ釣テ馬ヲ先開^{シツカ}
ニ乗テ矢ヲ放ス一三度馬ヲトボロニ馳テ矢
ヲ放ス一三度馬ヲ進メ走セテ矢ヲ放ス一
二度也馬ヲ能往是レ披キ合テ射事ナリ
昔ハ板付ノ矢ニテ射タル故ニ鹿ニ矢立テ勝
ヲ顕ス其勝ニ高下アリ矢中ノ星ニ中ヲ上
ノ勝トス數ノ星ニ中名ハ中ノ勝也星外ハ下
ノ勝トスル也近代ハ鹿ヲ風流ニ扱エルカ故ニ鎬ヲ

以テ射也故ニ鹿ノ動キ鈴ノ音スルヲ以テ勝トハス
ル者也又貴人見物ノ時ハ向鹿ニ掛ル常ハ追鹿ニ
釣ト知ルヘシ口傳

折掛串之事草鹿丸物笠懸ナトノ時若シ串
損シテ事シカクモトアリ其時用ル串也地ヨリ上
一寸法式ノ串ノ程ライニ見量テスヘシ太サヲモ
式ノ串程成行シスヘシ横竹ノ分ヲハ前ノ串ヲ
折懸テ後ノ立串一テ通スヘシ後ニ折懸串

ハ横串ノ中タルヘシ前ノ串ニテハ通ルヘシキナリ
 重ヤウハ前ノ串ハカリ面ハ見エルヤウニナシテ
 重^子ヘシ後ノ串ハ後ノ方ニナルヘシ結ヤウハ緒繩
 ニテ三卷ツ、卷テソレモ後ノ方ニテ結ヘシ中
 一匹西方ノ端一匹ツ、三匹結ヘシ掛結ニ結也竹
 シ少し刻ミテ働サルヤウニ結也又結目ノ下ニ
 見ヘヌヤウニ竹釘シキタルカ目シキ也是ハ故
 實ナリ

室町家草鹿之圖



室町家草鹿之圖



春ノ草鹿ハ櫻ヲ釣木トシテ 柳ヤツキ 山吹牡丹
 芍薬ノ色花ヲ以テ 飴ルナリ
 秋ノ草鹿ハ楓ヲ釣木トシテ 萩スギ 薄ハク 菊ノ花ヲ以
 テ 飴ルナリ 亦上ノ釣木ハ春秋ハ青竹ヲ用ル也
 春ノ草鹿ハ角ヲ落シテ 四肢ヲ付ルナリ
 秋ノ草鹿ハ角ヲ付テ 四肢ヲ付サルナリ
 飴ル草鹿ハ向鹿ト追鹿ニハ釣サル者也 横鹿ハ
 釣ト知ルヘシ 鹿ノ右ヲ射サセテ 亦左ヲ射シムヘシ

飴草鹿ノ釣緒ハ春夏ハ蒨^モ世^コ黄^キ秋冬ハ紅^シ風鈴
ハ下ト腹下ニツ付常ハ一ツ付ル也

御所様ノ仰ニハ鎌倉之代ニハ藁^{ワラ}ヲ以テ鹿ヲ
作り四足ヲ付サルトイハルハ鹿野草ヲ走ル姿
ヲ表シテ足ヲ略スルト見ヘタリ然ル上ハ野
草ナクシテハ足ヲ略シカクシトテ花飴リシ
遊サレケルヨリシテ猶其様面白カリケルヨリ
晴レ草鹿ニハ花飴リヲナスト知ルヘシ

大的ト丸物草鹿笠懸ナトモ塚ト云ヘキ也的
場トハ云ス但大的ハカリナトノ曰ハ的場ト云
テモ若シカラス夫トテモ塚ト云ヘキ事也

矢熊^{ウサ}ハ十一杖ヨリ折上テ九杖ニテ矢ヲ放スハ
シ直違弓手弓手番也還ル衆尻ニハ直違
弓手弓手番又押戻子モ射也鹿ニ中タル時ハ
馬ヲ出シテ矢声ヲ發スヘシ口傳

草鹿ノ射手賞既立^ト云ハ笠懸ノ如ク始

ト終ラ上手ト賞スル者也一騎宛カハルク射
事也

本式ノ草鹿ニハ烏帽子懸水干ニ袴行騰
ハキ小手差拾決掛テ乗也其品笠懸ニ替
コトナシ

又副又ハ矢取ノ出立モ笠懸ニ替コトナシ

草鹿ハ何騎ト云コトモナシ射手ノ有次第ニ
與行スル事也

落馬ノ禮ハ大概笠懸ノ如シ馬場中ヨリ此方
ナラハ場本へ乗帰り射直スヘシ鹿ノ二回ニ
シテ落馬ノ時ハ射直スニ及ス馬ヲ牽テ馬
場末へ通ヘシ若シ強キ落馬ナラハ相手ノ
人^{カクホフ}女保シテ馬ニ乗スヘシ騎テ互ニ一禮シ
テ乗帰り女保ノ人射ルナリ

草鹿ノ時ハ張間鞆ヲ置ヘシ行騰ハキタル時
ハ障泥シハ懸又者也袴ノ時ハ障泥ヲ用ヘシ

此外下鞞等馬飾りに定タル法ナシ紫ノ色ハ
御所様ノ懸サセラル、所自餘ノ人ハ用捨
アルヘシ

鎌差繩之掛様寸尺深色等ニテ犬追物ノ
書ニ記ス

鞭ハ竹根ノ鞭也身奇ヨリニ指サスヘシ

草鹿ノ手組モ始ノ射手終ノ射手シ除テ其

外ハ闌ニモ又ハ矢代ニモスル事也其法笠懸

ノ如シ

草鹿日記

誰殿 官位實名 ○○一○○○○○

某殿 同新 ○○○○一○○○

誰殿 日新 ○●○一○○●○○

某殿 同新 一○○●○一○○●●

誰殿 同新 ○○○○一○○○○○

右之日記ニ御ノ字ヲ加ル時ハ御所様ノ遊々

ル草鹿也其外大名高家タリトイハレ御ノ字ハ書サ
ル法也又大勢ノ時ハ一枚ニ調カタキ節ハ紙ヲ次ヘシ
法ニアラサレ凡若カラス○丸ノ内ニハ矢中ノ星○
白丸ハ数ノ星中也一星ノ外ノ中也●黒星ハ外也
儀式ノ時ハ檢見アリ矢沙汰モアル事也其品ハ笠
懸ノ如シ常ハ矢取ノ者中ヲ呼也星ト呼ハ上ノ
中也數ト呼ハ中ノ中也中ト計呼ハ下ノ中ト知コ
草鹿ハ埒モ茂架ヲモ結ニ及ス犬笠懸ノ如クナル

大儀ニ非ス内屋形坪庭ニテモ與行スル騎射
ノ事ナレハ其法ナシ
高人シ招キ草鹿シ催ス時ハ笠懸ノ如ク御
牀ノ傍アリ神前シ構ルニハ及サル也

草鹿ニ用ル弓矢之事

弓ハ相位弓シ用ヘシハ張弓之内
第四番弓也然共夏ハ塗木
ノ弓冬ハ白木ノ弓シ近代ハ用ルト多賀高忠モ
云レナリ

矢ハ四目鑄也カラ藁ハ節陰フシヲ取テ塗カケヘシ羽何レ
モ真羽シ用也四目ノ寸ニツフセ也目ハ四ツアルヘシ
故ニ四目鑄ト云本式也草ニ作時ナス目シニツ藁カラ
ハ拭シ篋ノニスル也四目ノ木ハ鬼防木ヒイラキ吉目ノ上カシラノ口三
爪エリ系ニテ卷テ其卷目ノ見スヤウニ地シニテ能
蠟色シ取テ黒ク塗也草ニ拵ルヘシ時ハ赤漆ニ塗テ
卷目ハカリ黒ク塗也柄ハ杖篋ノニスル也其時ハ矯キ
目赤漆ニ塗テ系目ハカリハ黒ク塗也畧儀也

常ノ四目ノ藁ハ白篋タルヘシ節ハ三節篋羽
中シ本トスヘシ羽ハ真羽シ付ヘシ漆矯キタルベシ系
ノ上シ赤漆ニ塗也色系ニテモ矯也四目ハ竹ノ根
ニテ堅キ木ニテモスヘシ何レモ定ス大小モ定サ
ル也塗モ赤漆ニモ黒漆ニモ塗也篋モ焦レ篋モ
スル也略儀ユヘ定タル法ナシ射習ノ人用ト知
ルヘシ

四目ニテ草鹿丸物ヲ射中タル時ハヒシト

射テ候ト云ヘシ外シタルトキハヒツスツト外
タルト云也又神シトス射テト云人アリテ射テト
云ヘシ的ヲ射テ丸物ヲ射テ草鹿ヲ射テ扱物ヲ
射テトハ古来ヨリ云ヘト神ス射テ射テト云事
ハナシ假カリ深シニモテ馬ウマニアサ云葉ハ遣コトサル法也

射テ候ト云ヘシ外シタルトキハヒツスツト外
タルト云也又神ス射テト云人アリテ射テト
云ヘシ的ヲ射テ丸物ヲ射テ草鹿ヲ射テ扱物ヲ
射テトハ古来ヨリ云ヘト神ス射テ射テト云事
ハナシ假深ニモテ馬ニ云葉ハ遣サル法也

右草鹿之法式雖記置其傳不可勝計上古
以來為面授口訣而家之為教訓至筆墨
亦可盡唯愚昧之子孫可心得旨趣之條
粗書戴者也

當流宗師
日本武尊
鹿嶋流
迎來流
貞純親王
八幡太郎義家

大坪流

六條判官 為義
 湯山入道中原玄性
 大坪式部太輔廣秀
 村上加賀守永幸
 齋藤備前守国忠
 齋藤安藝守好玄
 齋藤備後守忠玄
 齋藤齋宮頭辰遠

大坪本流

丹列住僧了慶坊
 齋藤求馬助辰光
 齋藤主税 定易

大群本用

以爲利官 故也
 其人之道 亦宜也
 大群之本 亦宜也
 其人之道 亦宜也
 其人之道 亦宜也
 其人之道 亦宜也
 其人之道 亦宜也
 其人之道 亦宜也
 其人之道 亦宜也

